

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「どんな おはなしかを たしかめて、音読しよう」 教材名「ふきのとう」

2 単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（C(1)イ）

登場するものの行動と場面の様子確かめ、音読に表す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）	①登場するものの行動と場面の様子確かめ、音読に表す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

登場するものの行動と場面の様子確かめ、音読に表す。この教材では、場面の行動と音読の理由を結ぶメモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

本文の行動を表す語を示し、だれの言葉かを確認する。自然の仕組みの正誤より物語の場面で何が起きているかを扱う。想定する難しさは、擬人化された自然物を知識だけで説明し、物語の言動を見ない。評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、場面の行動と音読の理由を結ぶメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～4	○人物や自然物の言動を本文から確認、相手との関わりを短いメモにする。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	5～8 （本時）	○人物や自然物の言動を本文から確認、相手との関わりを短いメモにする。同じ箇所を問や声の強さを変えて読み、どの読み方が行動の様子に合うかを比べる。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	9	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認して聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (5/9)

(1) 本時の目標

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(C(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「この場面では、それぞれが何をしようとしていますか」 【めあて】登場するものの行動と場面の様子を確認、音読に表す。 〈予想される児童の反応〉 ・前の言葉を聞いて次の動きが起こる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この場面では、それぞれが何をしようとしていますか」 人物や自然物の言動を本文から確認、相手との関わりを短いメモにする。同じ箇所を間や声の強さを変えて読み、どの読み方が行動の样に合うかを比べる。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・前の言葉を聞いて次の動きが起こる。 ・同じ大きな声にする必要はない。	本文の行動を表す語を示し、だれの言葉かを確認する。自然の仕組みの正誤より物語の場面で何が起きているかを扱う。 想定する難しさ：擬人化された自然物を知識だけで説明し、物語の言動を見ない。 評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、場面の行動と音読の理由を結ぶメモと活動中の発言・操作から確認する。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 場面の行動と音読の理由を結ぶメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ大きな声にする必要はない。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認する。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この場面では、それぞれが何をしようとしていますか」。中央は、場面の行動と音読の理由を結ぶメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

